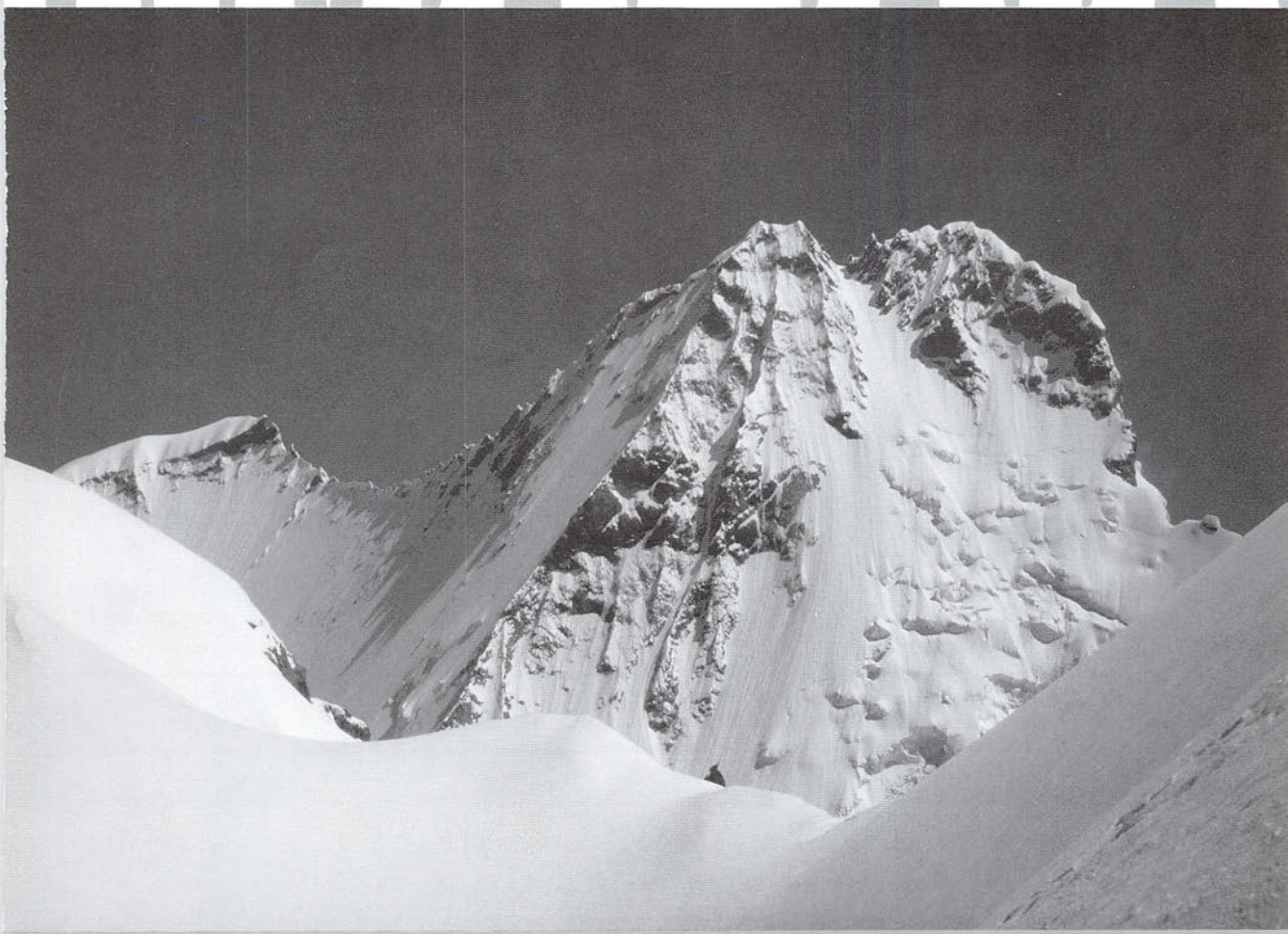
昭和51年5月9日第三種郵便物認可　平成15年4月1日発行（毎月一回1日発行）

ISSN 0385-5457

HIMALAYA

ヒマラヤ

No.377



2003 APRIL

日本ヒマラヤ協会

THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN——HAJ

2004年ＨＡＪサマー・キャンプ隊員募集

カラコルム スパンティーク(7,027m)

パキスタンの登山は、スカルドへのフライトや、ポータートラブルなど、短期間登山にとっては、幾つかの問題がありますが、情報の収集や強力なスタッフ配置、隊員の積極的な参加によって対処して成功に結びつけたいと思います。

記

1．期間：2004年７月18日(金)～８月25日(月)
2．募集人員：10名程度
3．負担金：75万円
4．資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5．申込〆切：11月30日（定員になり次第〆切）
6．その他：ＨＡＪの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。高所ポーターは使用しない。

チベット カンペンチン(7,281m)

シシャパンマの北麓の大地を進むと屏風のように白い山脈が連なっています。その主峰がカンペンチンと呼ばれる山です。まるでヒマラヤ山脈を守るかのように立派な牙のように鋭峰（北峰）を持った山です。1982年と1998年に日本隊によって登頂されていますが、ルートはその東面を予定しています。

記

1．期間：2004年７月22日～８月27日（37日間）
2．募集人員：10名程度
3．負担金：85万円
4．資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5．〆切り：定員になり次第
6．その他：ＨＡＪの登山隊は「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿参加の義務があります。また、高所ポーターを使用しない隊員による自力登山です。

表紙写真

2000年、夏のチベットは悪天候に見舞われた。その影響で私達は予定していたクーラ・カンリＩ（7,538m）南壁へアプローチが出来ず、ルートを北西面へと変更した。アタックを始め高度を稼ぐと、ドリューの様な立派な山容のカルジャン（7,221m）が姿を現わした。'84年ＨＡＪ隊によって初登頂された。

（写真・文：野沢井歩）

ヒマラヤ No.377

1．ロー・マンタンの空、遥かなり(8)　高橋　照
6．第11回　中国登山研究会報告
9．ヒマラヤ・ニュース〈地域ニュース・トピックス・books〉
10．青海省登山の和文参考資料一覧
13．トータル獲得標高2002　山森　欣一
24．寸感・事務局日誌

ロー・マンタンの空、遥かなり(7)

カリガンダキ左岸の地図の空白部を行く

ガーサからツェクチェへ

高橋　照

翌朝、ガーサでシェルパ族のポーター一人を荷物を持たせないで残した。そして、ククリを渡して登山の標識用の旗竿にする篠竹（ニガロ）を切らせることにした。これから私達の向うタック・コーラ地方以北は、乾燥地帯なので、このガーサからレテの間の篠竹を切らさないと、もう手に入れることが出来ないからである。このガーサ付近の急な山腹には沢山の篠竹が密生していた。

キャンプ地より少し進むと、道の両側に10軒ほどの隊商宿が並んでいた。しかし、それは2、3年前までのことで、皆入口に面した壁を外して改装し、明るい食堂に直していた。隊商も泊めるが、トレッカー達も泊まれるようにしたのである。この街道筋で同じスタイルで、同じ発想のもとにバッティを改装したり、新築し出したら、いまに共倒れになって、その中客引きが出ることになるだろう。その昔、インドラ・マン・シェルチャンとこの地方の旅をした時、途中の村人に何うしてタカリのこの一族が金持ちなのかと聞いたことがあった。そうしたら、タカリは計算が出来て数字が書けるからだということを聞いたことがある。しかし、これは昔の話で現在では計算が出来て数字が書けても、この生存競争の激しい現代社会では、もっと新しい現代に対応出来るセンスを持っていないと無理だろう。他人の真似ばかりしないで、もっとパーソナリティのある経営が必要だなあと痛切に思われた。

ガーサの村外れにチョルテンがあり、それより15分程でガーサの旧村に着く。入口にチョルテンの門があり天井には仏陀の壁画が描かれている。この旧村はほとんどが農家と隊商宿であるが、全く現在から取り残されているような村で、その昔通った時と少しも変わっていない。

ガーサの旧村より20分程登ったところに、カイキュー・コーラの新しい橋が懸かっていた。5年前の雨季に私が通った時、豪雨に流されて橋の修復に半日もかかり、ガーサに2日も泊まったことを覚えている。しかし、今は立派な木橋が高く石を積んだ上に懸けられ、少しぐらいの豪雨では流されることはないだろう。カイ・キュー（Kai Kyu）のキューは、チベット語のチュー（Chu）で水又は川の意である。グルンやタカリ語ではキューといっているが、チューから出た言葉である。だからカイ・キュー・コーラと呼ぶのは、ネパール人の呼称で適当ではない。カイ・キューだけで良いのである。

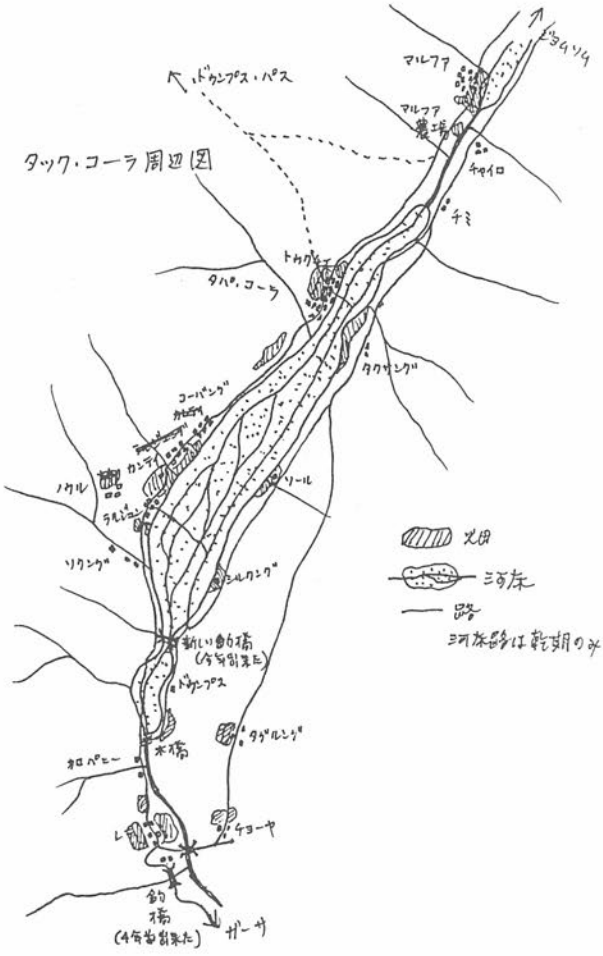
橋を渡り河岸段丘上に出て少し行くとカイ・キューの村があるが、家は2軒しか建っていない。これより照葉樹林帯の水平道を行くと、丁度レテとの中間地点にある長さ200メートル位の地帯にうるさいくらい小鳥のさえずっている処がある。きっとこの附近に小鳥達の巣が沢山あるのだろう。10年も前から今に至るまで、この地点を通るたびに、いつも小鳥がかしましくさえずっていることが印象的であった。

ガーサより3時間ちょっと行ったところにレテ・コーラの大釣橋がある。4年前に完成した橋である。10年程前にはカリガンダキとレテ・コーラの合流点附近のレテ・コーラに、チベット式の立派な木橋が懸かっていたが、その後豪雨のため流されてしまった。その後はレテ・コーラの上流に丸木橋が懸けられ、レテ・コーラのくずれた河岸段丘を登った。しかし間もなくこの橋も流され、現在の大釣橋の下流に丸木橋が懸けられていた。今私の休んで二股道の右の道を下れば、そこに出られるのである。大釣橋に行くにはまだ登り続け、

ガレを横断して下らなければ大釣橋に出ない、2、3人のポーター達も右の旧い道を降りて行ったので、私もついつられて下りてしまった。10分程下ったところで下の河原が良く見下ろせた。下を見るとキショールが、ズボンをぬいで渡渉している。上からキショールを呼んだところ、

「バーバ一人では危ないから、上の道を行って釣橋を渡った方が良いですよ」と、下から大声で忠告してくれた。又、道まで登り返すのもしんどいことだと思ったが、キショールの忠告通り分岐点まで登り返し大釣橋を渡った。橋の上から見下ろすと、登攀隊長の佐久間もジャブジャブ河を靴のまま渡っていたのが良く眺められた。

橋を渡ったところに、5年前には藁ぶきの小屋掛けをしたバッティが数軒あったが、今は新しい大きなホテルが建てられており、その前で伊達な服装をした生意気そうなシェルパが客引きをして



いた。そして、俺はアンナプルナ隊のシェルパで、今日ここに下りて来たのだ、とポーター達に得意気に話していた。

バッティよりジグザグの道を15分も登ると、カリガンダキの河岸段丘の上に出る。そして、道は松林の中をレテの集落のあるモレーンの跡のある河岸段丘に通じている。右を見ると足下にカリガンダキの濁流が轟々と音を立てて流れ、その対岸にチョーヤの小村があった。レテの集落を少し行くと、立派な白亜の建物が目につく。家の前にはチョルテンがある。これがレテの素封家バッターチャンの家である。何時もブーリー（お婆さん）がいるのだが、今日は戸が閉まっていて姿が見えない。ことによったらカトマンドゥに下っているのかも知れない。40分程で2、3軒のバッティのあるカーラパーニーに着く。馴染みのバッティに寄ったらタシとキショールが昼食をとっていた。私も弁当を取り出して食べることにした。

「バーバ、カリガンダキの道は右が良いか左が良いか、どっちだろうね」と、キショールが質問したので、私は、

「今は乾季だから、右の道（左岸）を通ってドゥンプスを通過し、その先のバッティのある処から、カリガンダキがくびれた様になっているところがある。そこの岬のようなところから、河原の道に入った方が　いいんじゃないかね。そこには、バッティが1軒ある筈だし、河原を30分も行くと、ラルジュングに向って板の橋が、5、6ヵ所掛けてあるから、ラルジュングから本道を行った方が良いと思うよ」と、私は彼に説明した。

「君が数年前ムスタンに入った時は、どの道を辿ったのかい」と、聞くと、キショールは、

「全部左のカリガンダキの右岸道を通りました」と、答えた。

「右岸道は普通雨季だけしか使っていないが、ラルジュングの手前のソクングの渡渉は冷たいからね。あの河はドゥラギリの大懸垂氷河から流れているので、真夏でも氷のように冷たいんだよ」と、話した。タシとキショールは私を残して出発していった。タシは私の飲んだミルク・ティーとタルカリの代金も払っていった。

カーラパーニーより少し行くと、2、3軒の農

家があり、カリガンダキにチベット様式の木橋が懸かっている。橋を渡るとチョルテンがあって、その側にも2軒ほどの家があった。カリガンダキはここから先は広い河床地帯になる。前方に見えるドゥンパスの集落目指して、道より離れ河床道を真直ぐ行き、ドゥンプスの手前から道に入った。山腹道を2、3回上下すると前方に数軒のバッティがある。昔は掘っ立て小屋のバッティが1軒だけしかなかったのだが、今では恒久的な石造りの立派なバッティである。カリガンダキの対岸には雲が幕のように垂れ下がり、その下から雪渓がのぞいていた。山々にはまだ大部残雪があるようだ。

バッティから少し登ると、カリガンダキの河床が瓢箪のようにくびれているところが、岬のように突出していた。道はそこから河床に下っている。ところが、今回ここを通り過ぎると、その瓢箪のくびれたところに、新しい長い釣橋が懸かっていた。今年、しかもほんの少し前にこの橋が完成したそうだ。この橋が出来たことによって、雨期でも楽にタック・コーラに入ることが出来るようになった。

しかし、私達の隊は一路カリガンダキの乾き切った河床道を北上していた。やがて左側に、コーバングやラルジュングの村が望見出来た。隊は斜めにカリガンダキを渡ってラルジュングに向うものと思っていたら、いっこうにその気配がない。ポーター達は砂塵の舞い上る河原を真直ぐに進んで行った。コーバングが左後ろに見える頃、河原の中に竹で作ったバッティが1軒臨時に造られ、ポーター達が休んでいた。しかも、その先1時間位と思われるところにも、急造のバッティが望見出来た。勿論、これらの小屋掛けの茶店は、乾期だけで、雨期になりカリガンダキに滔々たる水が流れ出すじぶんには、当然取り壊される運命にある。

私は先のバッティで30分程休んだ。コックのニマが焚火にあたってお内儀と何か話し込んでいる。きっと彼は彼なりの情報をつかもうとしているのだろう。やがてニマは、

「バラ・サーブ、トゥクチェに入る時、橋がないので渡渉をしなくてはならないようですよ。それも流れがきつく、かなり危険な渡渉のようです」

と、いうので、

▼レテの大釣橋

「心配しなくても大丈夫だよ。もし危険なようだったら、先発の誰かがロープを張ってくれると思うよ」と、私は笑いながらニマに答えた。

茶店を出て少し行くと、途中で会ったポーター達が口々に、

「サング・チャイナ（橋がない）、コーラ・カトゥネ・フンダイナ（河を渡るなんてとんでもない）」

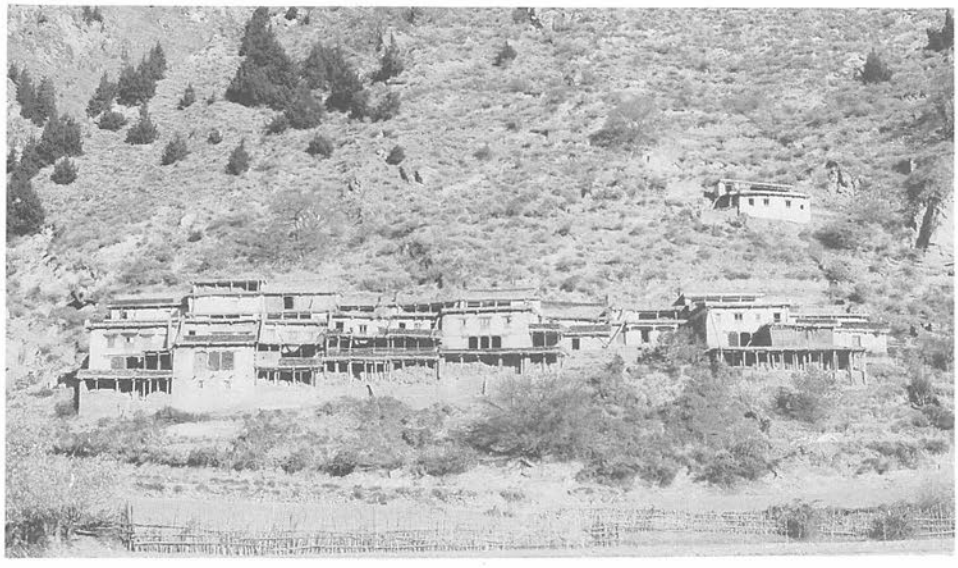
と、私に向かって言った。きっと渡渉は大きな重い荷物を背負っては危険だ、と茶店で言われたのだろう。トゥクチェの集落が左側に立ち並ぶようになって来ても、ポーター達はどんどん先に河原を進んで行った。そして、集落の終わり近くで左側に移動し始めた。私もそれにならって、カリガンダキの河床を左に横断した。幾すじにもなった浅瀬を渡り、カリガンダキの右岸に達した。そこにはカリガンダキの本流が、幅10メートル程となって滔々と流れていた。

ポーター達はそれぞれ2人一組になって手を取り合って渡河を開始した。女のポーターは空身で男達に手を引かれて渡り、彼女達の荷物は男達が運んだ。私の前にリエゾンのビーム・バードルがズボンと靴をぬいで河を渡ろうとしていた。見ると彼のリック・サックにはゴム草履がぶら下がっている。とっさに私は、

「ビーム・バードル！背中の草履を貸してくれ」

と、いうと、彼は素直に私に草履を貸してくれた。そこで、私もズボンと靴をぬいで、ビーム・バードルの草履をはき渡渉を始めようとすると、対岸にいたタシとキショールが、

「バーバ、流されるといけないから、今二人で行くから待って下さい」



◀コバンの村

「待っていて下さい」

「大丈夫だよ、このくらいの渡渉はなれているから、その必要はないよ」と、いいながら渡渉を開始した。水の流れは思ったより速く、しかも腰ぐらいまでもぐった。河の流れの中ほどまで来た時、キショールがたまりかねたのか、対岸から渡って来て、私の手を引いてくれた。有難かった。

河を渡った土手から20メートル程で、トゥクチェの旧道にある白いチョルテンのところへ出た。丁度シャンカル・マン・シェルチャンの家の前だった。シャンカル・マンの家にも一応挨拶に寄る必要があったが、私がタック・コーラであちこちの家に余り歩き回ると、菊地君のノイローゼが段々激しくなると思い、立ち寄らないことにした。どのみちトゥクチェに一晩しか泊まらないので、そんな時間もなかったからであった。

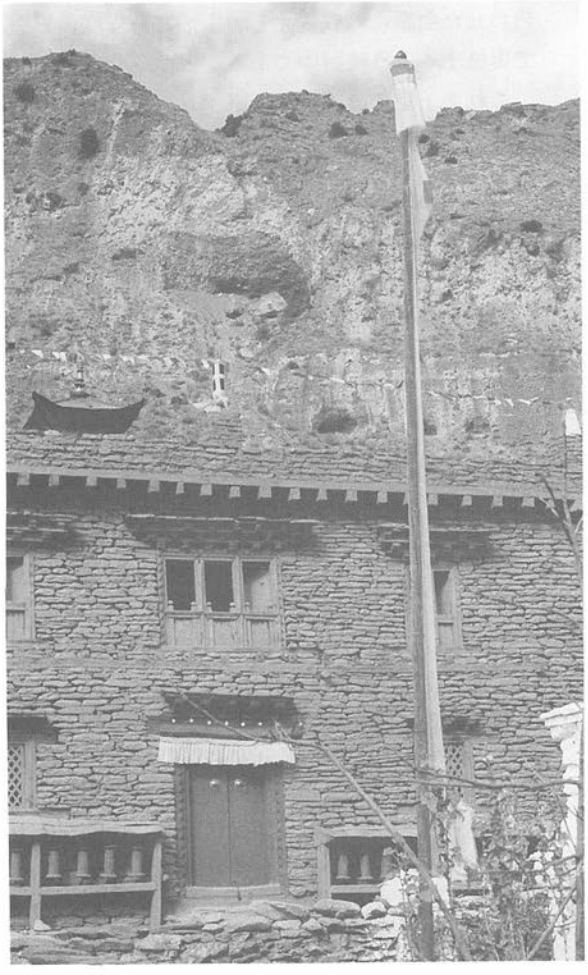
私達の天幕は既に、数年前他界したマンガル・シン・ラマのゴンパの前の広場に張られていた。この寺はゴンバ・サルバといってトゥクチェの3つの寺の中で、建物の規模は最も大きいが、最も新しい。この寺のパトマサムバヴァ像の隣には、私の友人故マンガル・シン・ラマの像がある。隣の学校の子供達が天幕の回りに集って見物に来ていた。この広場はその昔、タカリのチベット交易の全盛時代に、隊商のゾプキョやカッチャルの集結場として作られたものだが、チベット交易の衰微した現在、学校のサッカーやバレー・ボールのグランウドとして使われている。

一休みして、インドラ・マン・シェルチャンの本拠に赴いた。そこには、留守番のブッディ・バードルの両親がシェルチャンの本拠を守っていたからである。家にはブッディ・バードルと両親がいた。5年ぶりの対面である。私はこの家に来ると何か自分の家に戻って来たような錯覚におちいっ

▲ラルジュング村

▲コバン村

▶ゴンパ・サルバの内部とマンガル・シン・ラマの像



▲マンガル・シン・ラマのゴンパ

てしまう。長期間滞在をしていたからかもしれない。部屋のたたずまいや、色々の道具屋食器、そして祭器までが昔のままの姿で少しも変わらずに置いてあるからだ。ただ最近ではトレッカーも泊めているようではあったが、他の家のように看板は出ていなかった。菊地君が既にＴＢＳの人達といて、ブッディ・バードルと話をしていた。明日のトゥクチェに於ける取材のことらしい。そして、私に、「明日ジョムソムまで馬を使いますか。もしいるならブッディ・バードルがアレンジしてくれます」と、いうので、「私はこのトゥクチェに10回ぐらい来ているが、これから先は未だかって、歩いたことは一度もないんですよ。いつもシャンカル・マンの馬を借りて行くんですがね。歩いて行くなんて、とんでもない……」と、言って笑いながら返事をした。ブッディ・バードルは、「最近は馬の相場も倍以上にはね上っていますが、百ルピーで明日馬一頭と馬子を都合しましょう。馬子の分は金はいりませんが、飯代に５ルピーぐらいボクシスを払ってやって下さい」と、言うので、この商談はたちどころに成立したのであった。スッバ・クリッシュナ・バハドゥル・ゴウチャンは、旅に出てトゥクチェを留守にしているとのことだった。菊地君の頭痛の種も、一つなくなった訳である。スッバ・クリッシュナは、ムスタン・ラジャのセクレタリーもしているからである。

第11回　中国登山研究会報告

ＨＡＪ主催による新春の「中国登山研究会」も今年11回目となり２月２日東京・池袋の豊島区民センターで行われた。

会議には北海道から奈良県など全国から2003年中国・ヒマラヤへ出掛ける予定の登山隊関係者など約20名の参加をみた。

ＨＡＪの酒井國光会長が開会の挨拶を行った。会議では、

９時30分～11時40分「中国ヒマラヤの紹介」

ＨＡＪ山森欣一理事長から主にＨＡＪが入山した「中国領ヒマラヤ」の山々が、新疆、青海、四川、雲南、チベットの順に150枚のスライドを使って紹介された。

13時～14時40分「最近のチベット登山事情と中国登山の現状について」

始めに折から来日中の「チベット登山協会副秘書長、ニマ・ツェリン氏」から、最近のチベット登山に関連する諸事項について紹介があった。特にチベット独自に「高所ポーター」の養成を始めたことや、登山協会のアレンジではなく、旅行社のアレンジによるトレッカーが氷河に入り込み、事故を引き起こす事態が起きても、情報の収集に手間取り、適切な対処が出来ない、ことなどが紹介された。

ついで、山森理事長から「中国登山の手続きの概要」について説明があり、参加者からの質疑があった。

最後にＨＡＪ山森欣一理事長から、ＨＡＪが毎年開催している「インド・ヒマラヤ会議」、事「中国登山研究会」、「高所登山　事故と環境対策研修会」について、昨今の登山者の情勢から、来年からは「地域分科会」と「事故と環境」を組み合わせた会議に編成替えし、１泊２日程度の日程で実施するよう検討中であることが紹介された。

これで予定の会議日程を終了し、閉会となった。

（記：山森欣一）

2002年 中国ヒマラヤ 日本隊入山と結果集計表

（6,000m峰以上を対象）2003.1.17 山森欣一調べ

	山　名	標高	ルート	派遣母体名	隊長名	人数		備考
01	チョモランマ	8848	北　稜	桐生山岳会	樋口　宗平	12	○	5/17宮崎勉(54)、石川富康(65)が登頂。石川は世界最高齢登頂。
02	〃		〃	札幌中央勤労者	佐藤　信二	10	○	5/18長見重能(35)、25佐藤信二(51)、野口光二(54)が登頂。
	〃		〃					
03	〃		〃	公募隊ヒマラヤン	R.ブライス	2	○	5/17山田淳(23)、25田村英司(35)
04	チョー・オユー	8201	北西面	三浦ドルフィン	三浦雄一郎	7	○	5/9三浦雄一郎(69)、三浦豪太(32)、加藤幸彦(69)、村田博(61)、東秀訓(42)が登頂。
05	〃		〃	オオツキミノル		1	?	
06	〃		〃	アドベンチャー	近藤　謙司	13	○	9/30大田祥子(61)、高橋和夫(45)、柳田住吉(51)、佐藤邦彦(59)、近藤謙司(40)、10/1内田敏子(71)、白岩靖子(64)、花崎洋(58)、大蔵喜福(51)が登頂。内田世界最高齢登頂。
07	〃		〃	日本山岳会(合同)	橋本しをり	6	○	10/1恩田真沙美(35)、柏澄子(35)、大窪三恵(30)、青田浩(44)、２足立道代(29)が登頂。

	山　名	標高	ルート	派遣母体名	隊長名	人数		備考
08	〃		〃	中央大学	猪熊　隆之	3	×	9/28猪熊が7,700mに到達
09	〃		〃	福岡	堀永　敏克	3	×	9/28　7,750mに到達
10	〃		〃	公募帯アジアンT	田茂井重雄	1	×	9/24　7,600mに到達
11	〃		〃	シャモニクラブ	猪口　春秋	1	×	9/21　7,300mに到達
12	シシャパンマ	8201	南西壁	東京農業大学	谷川　太郎	3	×	5,700mに到達
	8000m峰			12隊		62名		
13	ギャチュン・カン	7952	北　壁	山野井ペア	山野井泰史	2	○	10/8泰史(37)が登頂
14	ムスターグ・アタ	7546	西　稜	日パ合同	南井　英弘	2	○	7/26南井英弘(66)、池谷健(64)
15	〃		〃	盛岡シルバーF	千葉　富夫	2	○	8/11千葉富夫(66)、出堀宏明(65)
16	ニンチン・カンサ	7206	西　稜	日本ヒマラヤ協会	山森　欣一	4	×	8/17樋上、大神田が6,700mに到達
17	チョム・カンリ	7048	北　面	日本教員	坂原　忠清	2	×	周辺の6,000m峰に登頂
	7000m峰			5隊		12名		
18	カキュ・カンリ	6859	東　稜	同志社大学	和田　豊司	5	◎	9/24西田克己(28)、植田雄介(29)、千田敦司(28)、坪井兵輔(27)、和田豊司(56)とＨＡＰ3名が初登頂した。
19	ルオニー	6610	偵察	神戸大学	北口　博教	3	−	
20	カンリ・ガルポ	6450	?		本庄　建男	7	?	
21	ジャドゥ	6088	北　面	同人ラリーグラス	辻野　治子	9	○	8/14穂積玲子(32)、近藤照衣(45)、辻野治子(45)、会田美帆子(27)、水野直子(38)が登頂。
23	ヤンモーロン	6060	南　面	横断山脈研究会	阪本　公一	4	×	6/17宮川清明(61)、村山準太(35)がダンチェツェンラ(5,833m)初登頂
	6000m峰			5隊		28名		
	合　計			22隊		102名		

(注) この他に5000m峰に2隊、26名が入山している。

中国領ヒマラヤ「日本人遭難死者」一覧表

[標高6000m以上の峰が対象] 遭難原因欄の×印は、登頂後帰路死亡。　　作成：2003.1.17 山森欣一

遭難年月日	遭難者氏名		遭難山岳名	標高	遭難原因	
1980, 5, 2	宇部　明(31)	1	チョモランマ	8848	雪崩　8-019	080
1981, 5,10	藤原　裕二(34)	2	ミニヤ・コンカ	7556	滑落　7-040	086
	島田　昌明(28)	3	〃		滑落　7-041	087
	佐々木　茂(31)	4	〃		滑落　7-042	088
	浦　光夫(32)	5	〃		滑落　7-043	089
	中嶋　正博(35)	6	〃		滑落　7-044	090
	松永　浩(28)	7	〃		滑落　7-045	091
	小田島　均(34)	8	〃		滑落　7-046	092
	小野寺忠一(29)	9	〃		滑落　7-047	093
7,23	寺西　洋治(36)	10	コングルー	7719	7-051 行方不明	097
	鴫　満則(36)	11	〃		7-052 行方不明	098
	松見　新衛(35)	12	〃		7-053 行方不明	099

遭難年月日	遭難者氏名		遭難山岳名	標高	遭難原因	
1982, 5, 1	菅原　信(26)	13	ミニヤ•コンカ	7556	7-059 疲労凍死	119
5,17	和田　実(33)	14	ポーロン•リ	7292	転落 7-060	120
8,15	柳沢　幸弘(27)	15	チョゴリ	8611	転落×8-022	123
8,31	坂野　俊孝(38)	16	〃		8-023 疲労凍死	124
9,27	中谷　武(27)	17	ミニヤ•コンカ	7556	7-064 高山病	126
1985, 9,17	石井　慎一(33)	18	チョモランマ	8848	雪崩　8-041	154
1987, 9, 2	横山　正夫(44)	19	チョモランマ	8848	転落　8-043	171
1990, 8,12	西堀　秀二(40)	20	トムール	7439	雪崩　7-082	185
	井上　誠(28)	21	〃		雪崩　7-083	186
	伊東　昌彦(21)	22	〃		雪崩　7-084	187
9,27	舘野　秀夫(41)	23	クラウン	7295	雪崩　7-085	189
	菅沼　勲(60)	24	〃		雪崩　7-086	190
1991. 1. 3	井上　治郎(45)	25	メイリー•シュエシャン	6940	雪崩　6-055	191
	佐々木哲男(38)	26	〃		雪崩　6-056	192
	清水　久信(36)	27	〃		雪崩　6-057	193
	近藤　裕史(33)	28	〃		雪崩　6-058	194
	米谷　佳晃(32)	29	〃		雪崩　6-059	195
	宗森　行生(32)	30	〃		雪崩　6-060	196
	船原　尚武(30)	31	〃		雪崩　6-061	197
	広瀬　顕(27)	32	〃		雪崩　6-062	198
	児玉　裕介(23)	33	〃		雪崩　6-063	199
	笹倉　俊一(21)	34	〃		雪崩　6-064	200
	工藤　俊二(21)	35	〃		雪崩　6-065	201
5,27	二上　純一(39)	36	チョモランマ	8848	滑落×8-051	202
9,19	五味　秀一(36)	37	シシャパンマ	8027	雪崩　8-052	203
	宮下　哲一(40)	38	〃		雪崩　8-053	204
10,16	大西　宏(29)	39	ナムチャ•バルワ	7782	雪崩　7-089	208
1992, 5,23	星　学(29)	40	チョモランマ	8848	転落　8-055	210
10, 2	二俣　勇司(37)	41	クラウン	7295	雪崩　7-091	212
1994, 928	福沢　卓也(29)	42	ミニヤ•コンカ	7556	雪崩　7-094	223
	渡辺　靖之(27)	43	〃		雪崩　7-095	224
	鈴木　洋介(27)	44	〃		雪崩　7-096	225
	工藤　潤二(22)	45	〃		雪崩　7-097	226
1995, 8, 8	才藤　哲也(39)	46	チャクラギール	6772	落石　6-75	229
1996,10, 6	大矢　宏(36)	47	チョー•オユー	8201	8-059 高山病	234

[注] この他にボゴダ(5,445m)で、1981.6.10 白水ミツ子(30)がクレバスに転落死亡。

地域ニュース

《ネパール》

明大隊がアンナプルナⅠ南壁へ

明治大学炉辺会は、アンナプルナⅠ（8,091ｍ）南壁イギリスルートからの登頂を目指して８名から成る登山隊を派遣する。この登頂が成功すると同会に所属する会員による八千メートル峰14座全山登頂というめずらしい記録の樹立となる。
隊長・山本篤(40)、登攀隊長・高橋和弘(29)、隊員・大窪三恵(30)、早川敦(29)、森章一(27)、加藤慶信(27)、天野和明(26)、松本浩(23)

農大隊がサガルマータ&ローツェ同時登頂へ

東京農業大学は、サガルマータ(8,848m)とローツェ(8,516m)の同時登頂を目指して登山隊(山下康成(　)隊長ら９名)を派遣する。計画では、８名の隊員が２パーティに分かれ、両峰に同時アタックし、全員の両峰登頂を目論んでいる。

ＪＡＣがカングリ・シャールへ

ＪＡＣでは、シニア登山隊(朴元鐘徳隊長ら８名)をネパールのプモリ北面にあるカングリ・シャール(6,811ｍ)に派遣する。出発は４月18日の予定。

トピックス

山野井夫妻に「植村直己冒険賞」

２月12日、「植村直己冒険賞」が、昨秋、中国側からギャチュン・カン(7,952ｍ)北壁に挑戦した。山野井泰史(37)、妙子(46)夫妻に贈られると発表された。同賞の夫妻による受賞は初めて。

授賞式は、植村さんの故郷の兵庫県日高町で６月７日に行われる。

尚、同夫妻は、凍傷で入院していたが、２月22日退院し、リハビリを開始した。

第11回　海外登山研究会のお知らせ

海外登山を身近なものとして広め、さらに安全な登山を実践するために、情報を交換しながら研究・検討を行うことを目的に開催します。

日時：2003年４月19日(土) 13時～20日(日)正午
場所：滝野すずらん公園「青少年山の家」
　　札幌市南区滝野247　☎011-591-0303
参加費：一般８千円、学生４千円（日帰り４千円）
　　（宿泊費、食費、資料代含む）
申し込み先：北海道海外登山研究会実行委員会
　　代表：大内倫文　☎011-222-5053（つる）
内容：講演「未知への誘（いざな）い」　棚橋靖
　　（学習院大学山岳部ＯＢ、ＪＡＣ）
　　登山報告：チョモランマ（中央労山）、テンギ・ラギ・タウ（道岳連）、ジャドゥ（ラリーグラス）など。

Ｂｏｏｋｓ

海外登山報告書　フルーテッド・ピーク

練馬山の会が、創立30周年記念として、インド、ヒマルチャル・プラデシュのフルーテッド・ピーク(6,122ｍ)に派遣した登山隊の報告書。カラー写真で概略が分かる。更に詳細な各事項の報告が詰め込まれており、後に続く登山者の参考になる。これで863円は安い！　（記：山森）

Ｂ５判　186頁（内カラー28頁）
（連絡先）〒176-0012　東京都練馬区豊玉北５-15-７大幸ビル201号　練馬山の会

■財政支援金：［５万円］中岡久　［３万円］天城敏彦　［１万円］出口當

東京集会のお知らせ

日　時　３月31日（月）午後７時～
内　容　ピッケルの話題の予定
場　所　ＨＡＪルーム（地下鉄有楽町線東池袋下車４番出口から地上に出て右へ徒歩２分）
　　又は、ＪＲ大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面２つ目の東池袋４丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩２分）

青海省登山の和文参考資料一覧

（1979年開放以後のもの）

1）アムネマチン（Anemaqin）6,282m

1.アムネマチン初登頂（上越山岳協会）ベースボールマガジン社　1982年1月30日 2,400円

2.アムネマチン・写真集（上越山岳協会）ベースボールマガジン社　1981年12月15日 4,000円

3.アムネマチン峰•大いなる神（張祥）「月刊人民中国」1982年10月号

4.上越山岳協会アムネマチン登山隊の記録「山と渓谷532号」1981年9月号

5.アムネマチン主峰峰登頂（1981年5月の記録）「岳人411号」1981年9月号

6.アムネマチンⅡ峰登頂の記録（日中合同登山技術研究会実行委員会）「岳人450号」1984年12月号

7.ザイルでつなぐ日本と中国（酒井國光）「岳人450号」1984年12月号

8.友好の阿尼瑪卿（第四次日中合同登山技術研修隊）1985年7月29日

9.勇攀高峰　アムネマチン　未踏ルートに挑む　山梨県山岳連盟　1994年1月30日

10.中国の桃源郷・アムネマチンを巡る（伊佐九三四郎）「山と渓谷679号」1992年2月号

11.Mt.Animaqing　P 5　鳥取大学 1995年2月

2）黄河周辺

1.母なる黄河の源流を訪れる「ヒマラヤ163号」1985年6月号

2.黄河源流探検報告「ヒマラヤ167号」1985年10月号

3.中国青蔵高原に黄河源流を探る（八木原圀明）「岳人461号」1985年11月号

4.黄河源流を探る　読売新聞社　昭和60年11月13日　1,300円

5.黄河万里行　中国・水利部黄河水利委員会「恒文社」1984年6月15日

6.概念図も写真もない中国中央部黄河源流域（Topics）「山と渓谷594号」1985年9月号

7.85青蔵高原探検隊学術班報告「ヒマラヤ178号」1986年9月号

8.ルポ・黄河源流行（江本嘉伸）読売新聞社昭和61年9月　1,400円

9.日本山岳会中国登山隊1985報告書－黄河源流騎馬旅行－（日本山岳会中国登山隊1985年実行委員会）1986年1月31日

10.青海高原　西寧から成都へ（京都山の会）ナカニシヤ出版　1990年9月　2,400円

3）長江源流周辺

1.青蔵№1　青蔵高原登山研究会　1984年4月27日

2.青蔵№2　青蔵高原登山研究会　1985年6月20日

3.長江万里行　長江万里行編集グループ「恒文社」1984年5月15日　1,900円

4.長江－源流から河口まで－外交出版社1980年

5.長江万里行に挑んだ中国青年「ヒマラヤ180号」1986年11月号

6.格拉丹冬雪山初登頂と長江正源流調査（松本徨夫／倉智清司）「山岳第81年」日本山岳会1986年12月　3,500円

7.中米合同長江探検「ヒマラヤ184号」1987.3

8.遥かなる揚子江源流（松本徨夫／松原正毅編）日本放送出版協会　1987年5月　1,800円

9.雲表の国　青海・チベット踏査行（色川大吉）小学館　1988年3月　1,500円

10.青蔵紀行　揚子江源流をゆく（松原正毅）

11.長江源流900キロ、悠久の川旅（山田高司）「山と渓谷668号」1991年3月号

4）青蔵公路周辺

1.雲上の道・青海～ネパール初縦断「ヒマラヤ167号」1985年10月号

2.チベット青蔵高原に見た人・河・寺そして山（中江啓介／大石英代）「岳人462号」1985年

12月号
3.日本山岳会中国登山隊1985報告－カカサイジモンカ山－（日本山岳会中国登山隊1985年実行委員会）1986年1月31日
4.悠久なり崑崙の夏　玉珠峰計画「ヒマラヤ259号」1993年6月号
5.玉珠峰登頂（ＨＡＪ登山隊）「ヒマラヤ264号」1993年11月号
6.中国、青海　東部崑崙　玉虚峰登山計画「ヒマラヤ272号」1994年7月号
7.崑崙の頂を踏む　青海・玉珠峰　日本ヒマラヤ協会　1994年8月
8.玉珠峰登山計画「ヒマラヤ273号」1994年8月号
9.友好の頂・玉虚峰登頂「ヒマラヤ第275号」1994年10月号
10.玉珠峰全員登頂「ヒマラヤ277号」1994年12月号
11.東崑崙・天女の山　玉虚峰に登る　日本ヒマラヤ協会　1996年2月
12.草原情歌――日中友好・沼東青蔵踏査隊の記録から（久保田保雄）「山と渓谷696号」1993年7月号

5）ブカダバン（Buka Daban・新青）6,860m
1.遥かなり新青峰　ＨＡＪ崑崙登山計画「ヒマラヤ199号」
2.遥かなる新青峰への道（ＨＡＪ崑崙登山隊）「ヒマラヤ201号」1988年8月号
3.中国、新青山群の山麓（福山佶）「岳人498号」1988年12月号
4.崑崙山脈東部にそびえる未踏峰・新青峰はナキウサギの鳴く野性の秘境（京都山岳会新青峰登山隊）「岳人508号」1989年10月号
5.崑崙の秘境 新青峰(京都山岳会）1990年9月
6.再び青蔵高原へ　新青峰登山計画「ヒマラヤ246号」1992年5月号
7.再挑戦でおとした長江源流の秘峰・新青峰（福山佶）「岳人544号」1992年10月号
8.青海省最高峰　新青峰初登頂記（ＨＡＪ登山隊）「ヒマラヤ250号」1992年12月号
9.東カンツァーリ峰 6167m初登頂（増山茂）「岳人626号」1999年8月号
10.厳冬期の東カンツァーリ峰(6,167m)初登頂（増山茂）「山岳第94年」日本山岳会　1999年12月4日　3,500円

6）祁連山脈周辺
1.「祁連山脈遠行」（柳木昭信／神永幹雄）「山と渓谷597号」1985年11月号
2.日本山岳会中国登山隊1985年－祁連山脈、崑崙、黄河源流（宮下秀樹）「山岳第81年」日本山岳会　1986年12月
3.日本山岳会中国登山隊1985年報告書　祁連山カカサイジモンカ山　黄河源流騎馬旅行（日本山岳会中国登山隊）1986年1月
4.西望祁連（福島高校山岳部ＯＢ会祁連友好登山隊）1989年1月
39.日中鉄道友好登山隊　岡則吾結峰に初登頂（草木陽一）「山663号」2000年8月20日

7）アルチン（Altun）5,798m
1.秘峰アルチン山（秋田魁新報社）1989年12月2,300円

8）メコン流域
12.メコン源頭のひと滴をもとめて（藤森和則）「山と渓谷727号」1996年2月号
13.遥かなり　曲阿加吉瑪　新潟県山岳協会　平成11年1月
06.メコン源流の人と自然（藤森和則）「山と渓谷775号」2000年2月号
58.メコン川源流航行踏査　ボートで下った青蔵高原560km（東京農業大学探検部）「岳人632号」2000年2月号
68.メコン川（瀾滄江）水源問題を検証する（上、中、下）（中村保）「岳人649号～651号」2001年7月号～9月号
31.メコン川（瀾滄江）水源の確定（中村保）／瀾滄江（メコン河）源流とその水源の確定（関志華、周長進、陶宝祥）「ヒマラヤ361号」2001年12月号
20.メコン川（瀾滄江）水源問題を検証する　付、メコン源流の山（中村保）「山岳第96年」日本山岳会　2001年12月1日　3,500円

トータル獲得標高2002

山森欣一

21世紀に入りヒマラヤ登山界は、多様な進展を見せつつあるが、高所遠足化した流れは当分の間続く様相を呈している。

2002年は、標高六千メートル以上の峰43座に62隊244名を送り込んだ。これは人数では前年の75％に過ぎない。減少の大きな要因は、2001年のアフガニスタン空爆と、2002年に入ってにわかに浮上した印・パ危機によってもたらされた、パキスタンに対する不安。さらにはマオイスト騒動からくるネパールに対する不安などである。

2002年は、カラコルムのスパンティーク峰で、高山病による死亡事故が発生し、1968年以降35年間連続して死亡事故が発生するという不名誉な記録更新となった。この死亡事故は、頂上で意識不明となり救助され意識を回復したＣ２で死亡するという希なケースでもあった。この事故は、高所登山に向かうリーダーは、高所医学の基礎知識を身に付けてる筈だ！という関係者の常識に警鐘を鳴らすこととともなった。

2002年の最大の記録は、またもや山野井泰史によって成し遂げられた。ギャチュン・カン北壁のアルパイン・スタイルによる攻略であった。生死をかけた挑戦は、かろうじて生還し得たものの凍傷により暫くは厳しい登攀ができないことは残念である。また、希に見る悪天続きの中、ガッシャーブルムＩの登頂に成功したものの下山中に発症した後藤文明のケースも、高所登山の恐ろしさを再認識する契機となった。

七千メートル峰の初登頂は、ＪＡＣ隊によるパトマナブだけであった。

35,000ｍ（５座登頂）を超えた岳人たちの概要

（氏名のゴジックは女性　×印は死亡）　　2002年12月31日現在

順位	氏　名	山　名	標高(ｍ)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
1	近藤和美	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1984.7.31	九山同人	ツェト		1
	(135,257ｍ)	b.レーニン	7,134	K	1984.8.6	九山同人	ラズジ		
	18座	c.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986.8.3	九山同人	ボロド		
	1941.11.生	d.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1986.8.9	九山同人	ツェト		
	(61才)	e.レーニン	7,134	K	1986.8.15	九山同人	ラズジ		
		f.レーニン	7,134	K	1988.8.14	労山	ラズジ		
		g.ハン・テングリ	7,010	H	1989.8.6	労山	ソロマ		
		h.ハン・テングリ	7,010	K	1991.8.2	労山	ポグレ		
		i.ポベーダ	7,439	K	1991.8.14	労山	ヴァジ		
		j.チョー・オユー	8,201	C	1992.9.20	カトマンズクラブ	北西面	50才	
		k.シシャパンマＣ	8,008	C	1994.5.18	労山	北東稜	52才	
		l.ヌン	7,135	I	1995.8.16	労山	北西稜		
		m.ダウラギリＩ	8,167	N	1995.10.6	労山	北東稜	53才	
		n.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1996.8.14	労山	ツェト		
		o.リスム	7,050	C	1997.5.10	労山	東　稜	初登頂	
		p.チョモランマ	8,848	C	1998.5.22	労山	北　稜	56才	
		q.ナンガ・パルバット	8,126	P	1999.7.29	労山	西　面	57才	
		r.ブロード・ピークＭ	8,051	P	2000.7.30	労山	西　稜	58才	

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
2	×山田　昇	a.ダウラギリⅠ	8,167	N	1978.10.21	群馬県山岳連盟	南東稜		2
	(115,804)	b.カンチェンジュンガM	8,586	N	1981.5.9	H A J	南西面		
	14 座	c.ランタン・リ	7,205	N	1981.10.10	H A J	南西稜	初登頂	
	1950.2. 生	d.ダウラギリⅠ	8,167	N	1982.10.18	カモシカ同人	北西稜	初登攀	
	初登頂2座	e.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	カモシカ同人	西　面	日本人初登	
	冬期　3座	f.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	カモシカ同人	南東稜	冬期第三登	
	無酸素2座	g.マモストン・カンリⅠ	7,526	I	1984.9.13	H A J	北東稜	初登頂	
	ハット・トリック	h.K2	8,611	P	1985.7.24	H A J	南東稜	O_2レス	
	2回	i.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜	O_2レス	
	アルパイン・	j.マナスル	8,163	N	1985.12.14	カモシカ同人	北東面	冬期第二登	
	スタイル3座	k.アンナプルナⅠ	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南　壁	冬期初登攀	
	トラバース1座	l.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北～南	初縦断	
		m.シシャパンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		n.チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	H A J	北西面	ハット・トリック	
3	岩崎　洋	a.マモストン・カンリⅠ	7,526	I	1984.9.15	H A J	北東稜		4
	(111,025m)	b.カルジャン	7,216	C	1986.10.14	H A J	西　壁	初登頂	
	15 座	c.ピラミッド・ピークM	7,123	I	1993.4.24	H A J	北東稜	初登頂	
	1960.2. 生	d.ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995.7.7	バーバリアン	西　稜		
	(42才)	e.サトパントM	7,075	I	1995.9.13	雪と岩の会	北　稜		
	初登頂2座	f.ディラン	7,257	P	1996.7.24	バーバリアン	西　稜	下部初登攀	
	トラバース1座	g.ムスターグ・アタM	7,546	C	1996.9.14	浪	西　稜		
		h.ブロード・ピークM	8,051	P	1997.7.16	群馬県山岳連盟	西　稜		
		i.ムスターグ・アタM	7,546	C	1997.9.29		西　稜		
		j.サイパル	7,031	N	1998.10.7	バーバリアン	北　面	下部初登攀	
		k.スパンティーク	7,027	P	1999.8.17	バーバリアン	南東稜		
		l.ナムナニ	7,694	C	1999.10.25	H A J	北　面	西面へ下降	
		m.スパンティーク	7,027	P	2000.8.15	H A J	南東稜		
		n.アピ	7,132	N	2001.10.8	バーバリアン	北　面		
		o.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2002.8.5	H A J	北　稜		
4	田辺　治	a.ラプチェ・カン	7,367	C	1987.10.26	H A J	西　稜	初登頂	3
	(109,652m)	b.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1990.7.26	イエティ同人	南西稜		
	14 座	c.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1991.7.17	東海山岳会	ツェト		
	1961.1. 生	d.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1991.7.29	東海山岳会	ボロド		
	(41才)	e.レーニン	7,134	K	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ		
	初登頂3座	f.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西　稜		
	冬期　1座	g.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
	ハット・トリック	h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁	ハット・トリック	
	1回	i.ギャジ・カン	7,038	N	1994.10.7	信州大学	西　稜	初登頂	
		j.マカルーⅠ	8,463	C	1995.5.21	J A C	東稜下	初登攀	
		k.ラトナ・チュリ	7,035	N	1996.10.14	信州大学	西　稜	初登頂	
		l.K2	8,611	P	1997.7.19	J A C 東海	西壁上部から初登		

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
		m.チョー・オユー	8,201	C	2001.10.9	JAC東海	北西面		
		n.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2002.8.5	HAJ	北　稜		
5	尾形好雄	a.ヒマルチュリW	7,540	N	1978.5.7	雪と岩の会	南西稜	初登頂	5
	(85,583m)	b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	HAJ	南東面	日本人初登	
	11座	c.マモストン・カンリⅠ	7,526	I	1984.9.15	HAJ	北東稜	初登頂	
	1948.7.生	d.ギャラ・ペリ	7,294	C	1986.10.31	HAJ	南　稜	初登頂	
	(54才)	e.リモⅠ	7,385	I	1988.7.28	HAJ	南　壁	初登頂	
	初登頂4座	f.ピラミッド・ピークM	7,123	I	1993.4.24	HAJ	北東稜		
	冬期　1座	g.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.22	群馬県山岳連盟	南西壁		
		i.サトパントM	7,075	I	1995.9.13	雪と岩の会	北　稜		
		j.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1997.7.8	群馬県山岳連盟	南西稜		
		k.ブロード・ピークM	8,051	P	1997.7.20	群馬県山岳連盟	西　稜		
6	名塚秀二	a.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜		7
	(83,442m)	b.チョゴリ	8,611	C	1990.8.9	横浜山岳協会	北西壁	下部初登攀	
	10　座	c.カンチェンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	HAJ	北東稜		
	1954.11.生	d.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
	(48才)	e.サガルマータ	8,848	N	1993.12.18	群馬県山岳連盟	南西壁	冬期初登攀	
	冬期　1座	f.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北　稜		
		g.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
		h.シシャパンマM	8,027	C	1999.10.29	群馬県山岳連盟	北東稜		
		i.ブロード・ピークM	8,051	P	2000.7.29	前橋山岳会	西　稜		
		j.ダウラギリⅠ	8,167	N	2001.10.11	群馬ミヤマ山岳会	北東稜		
7	小西浩文	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1982.7.29	高山研究所	ツェト		6
	(77,274m)	b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1982.8.5	高山研究所	ボロド		
	10　座	c.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜	20歳	
	1962.3.生	d.レーニン	7,134	K	1988.8.14	イースト	ラスジ		
	(40才)	e.ハン・テングリ	7,010	H	1989.8.6	群馬ミヤマ	ソロマ		
		f.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.30	パイネ／スキー	西　稜		
		g.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993.7.31	パイネニアソブ	南西稜		
		h.チョー・オユー	8,201	C	1995.5.9	ガイア	北西面		
		i.ダウラギリⅠ	8,167	N	1997.5.31	ガイア	北東稜		
		j.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997.7.16	JAFMA	北　稜		
8	田部井淳子	a.アンナプルナⅢ	7,555	N	1975.5.16	女子登攀クラブ	南西面		9
	(68,814m)	b.サガルマータ	8,848	N	1975.5.16	女子登攀クラブ	南東稜	女性初登頂	
	10　座	c.シシャパンマM	8,027	C	1981.4.30	女子登攀クラブ	北東稜		
	1939.9.生	d.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985.7.28	女子登攀クラブ	ツェト		
	(63才)	e.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.8.7	女子登攀クラブ			
		f.レーニン	7,134	K	1985.8.15	女子登攀クラブ			
		g.ハン・テングリ	7,010	H	1994.8.12				
		h.チョー・オユー	8,201	C	1996.9.10	国際公募隊		56歳と363日	

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
		i.ポベータ	7,439	K	1999.8.11				
		j.ムスターグ・アタ	7,546	C	2001.8.12		西　稜		
9	野沢井　歩	a.ヌン	7,135	I	1992.8.13	H　A　J	西　稜		12
	(74,327m)	b.ダウラギリⅠ	8,167	N	1993.10.6	ベルニナ山岳会	北東稜		
	10　座	c.プモ・リ	7,161	N	1994.10.21	バーバリアン	南　稜		
	1964.8.　生	d.ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995.7.7	バーバリアン	西　稜		
	(38才)	e.サイパル	7,031	N	1998.10.7	バーバリアン	北　面	下部初登攀	
	トラバース1座	f.スパンティーク	7,027	P	1999.8.15	バーバリアン	南東稜		
		g.ナムナニ	7,694	C	1999.10.25	H　A　J	北　面	西面下降	
		h.ニンチン・カンサ	7,206	C	2001.8.15	H　A　J	西　稜		
		i.アピ	7,132	N	2001.10.6	バーバリアン	北　面		
		j.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2002.8.5	H　A　J	北　稜		
10	山　本　篤	a.ラカポシE	7,010	P	1987.7.3	明治大学	北　稜		9
	(72,639m)	b.シシャパンマM	8,027	C	1988.10.24	H　A　J	北東稜		
	9　座	c.チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	H　A　J	北西面		
	1962.10.　生	d.サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜	初登頂	
	(40才)	e.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J　A　C	南　壁	初登攀	
	初登頂2座	f.マカルーⅠ	8,463	C	1995.5.21	J　A　C	東稜下		
		g.K2	8,611	P	1996.8.14	J　A　C	南南東稜		
		h.マナスル	8,163	N	1997.10.8	明治大学	北東面	初登頂	
		i.リャンカンカンリ	7,534	C	1999.5.10		北　稜		
11	尾崎　隆	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1977.8.8	愛知学院大学	西　稜	第二登	10
	(67,483m)	b.チョモランマ	8,848	C	1980.5.10	J　A　C	北西壁	下部初登攀	
	8　座	c.マナスル	8,163	N	1981.10.12	イエティ同人	北東面		
	1952.9.　生	d.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	カモシカ同人	西　面	日本人初登	
	(50才)	e.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	カモシカ同人	南東稜	冬期第三登	
	冬期　1座	f.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.19	J　A　C	南西面		
		g.シシャパンマC	8,008	C	1986.9.10	国　際　隊	北東稜		
		h.マカルー	8,463	N	2001.5.12	ニュージランド	北西稜		
12	×品川　幸彦	a.レーニン	7,134	K	1992.8.12		ラズジ		11
	(66,842m)	b.ハン・テングリ	7,010	H	1993.8.4		ソロマ		
	9　座	c.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1994.7.28		ツェト		
	1968.2.　生	d.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1994.8.4		ボロド		
		e.ハン・テングリ	7,010	H	1995.7.30		ソロマ		
		f.ポベーダ	7,439	K	1995.8.10		ヴァジ		
		g.ムスターグ・アタM	7,546	C	1996.8.13	H　A　J	西　稜		
		h.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北　稜		
		i.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
13	三　谷　統一郎	a.アンナプルナ・ダクシン	7,219	N	1978.10.16	明治大学	南西稜	初登攀	17
	(65,482m)	b.ダウラギリⅠ	8,167	N	1982.10.17	高松労山	北東稜		
	8　座	c.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.20	J　A　C	南西面		

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
	1958.3. 生	d.チョー・オユー	8,201	N	1985.10.3	カトマンズクラブ	北西面	日本人初登	
	(43才)	e.サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜		
	初登頂1座	f.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	JAC	南　壁	初登頂	
	トラバース1回	g.マナスル	8,163	N	1997.10.8	明治大学	北東面		
		h.ローツェ	8,516	N	2002.10.8	明治大学	西　面		
14	宮崎　勉	a.ダウラギリⅣ	7,661	N	1975.10.21	カモシカ同人	南　面		18
	(64,712m)	b.ダウラギリⅠ	8,167	N	1978.10.19	群馬県山岳連盟	南東稜	初登攀	
	8　座	c.ローツェ	8,516	N	1983.10.10	カモシカ同人	西　面		
	1947.11. 生	d.カルジャン	7,216	C	1986.10.16	HAJ	西　面		
	(55才)	e.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.12	群馬県山岳連盟	北西面		
		f.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997.7.9	群馬県山岳連盟	北　稜		
		g.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
		h.チョモランマ	8,848	C	2002.5.17	桐生山岳会	北　稜	54歳と187日	
15	後藤文明	a.プモ・リ	7,161	N	1987.10.13	境町山の会	南　稜		20
	(63,466m)	b.サトパントM	7,075	I	1990.8.10	HAJ	北　稜		
	8　座	c.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
	1965.5. 生	d.サガルマータ	8,848	N	1993.12.18	群馬県山岳連盟	南西壁	冬期初登攀	
	(37才)	e.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1997.7.8	群馬県山岳連盟	南西稜		
	冬期　1座	f.ブロード・ピークM	8,051	P	1997.7.20	群馬県山岳連盟	西　稜		
		g.シシャパンマM	8,027	C	1999.10.29	群馬県山岳連盟	北東稜		
		h.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2002.8.5	HAJ	北　稜		
16	重廣恒夫	a.ナンダデヴィE	7,434	I	1976.6.9	JAC	南　稜		13
	(63,435m)	b.K2	8,611	P	1977.8.8	JMA	南東稜	第二登	
	8　座	c.ラトックⅠ	7,145	P	1979.7.19	京都カラコルムC	南　稜	初登頂	
	1947.10. 生	d.チョモランマ	8,848	C	1980.5.10	JAC	北西壁	下部初登攀	
	(55才)	e.カンチェンジュンガC	8,482	N	1984.5.18	JAC	南　稜	Sから縦走	
	初登頂1座	f.マッシャーブルムE	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁	初登攀	
	トラバース1座	g.ブロード・ピークM	8,051	P	1985.8.12	関西カラコルム	西　稜		
		h.ナイプン	7,043	C	1991.11.25	JAC	南西稜		
17	江塚進介	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1991.7.17	東海山岳会	ツェト		14
	(62,937m)	b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1991.7.29	東海山岳会	ボロド		
	8　座	c.レーニン	7,134	K	1991.8.5	東海山岳会	ラズジ		
	1961.4. 生	d.ブロード・ピークM	8,051	P	1993.8.24	東海山岳会	西　稜		
	(41才)	e.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
	冬期　1座	f.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	群馬県山岳連盟	南西壁	ﾊｯﾄ･ﾄﾘｯｸ	
	ﾊｯﾄ･ﾄﾘｯｸ	g.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北　稜		
	1回	h.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南西稜		
18	今村裕隆	a.ギャラ・ペリ	7,294	C	1986.10.31	HAJ	南　稜	初登頂	15
	(61,954m)	b.チョゴリ	8,611	C	1990.8.9	横浜山岳協会	北西壁	下部初登攀	
	8　座	c.カンチェンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	HAJ	北東稜		
	1959.4. 生	d.マカルーⅠ	8,463	N	1991.10.5	ベルニナ山岳会	北西稜		
	(43才)	e.ヌン	7,135	I	1992.8.13	HAJ	西　稜		

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
	初登頂1座	f.ティリッチ・ミールM	7,706	P	1995.7.7	バーバリアン	西　稜		
		g.スパンティーク	7,027	P	1999.8.15	バーバリアン	南東稜		
		h.アピ	7,132	N	2001.10.6	バーバリアン	北　面		
19	石川富康	a.チョー・オユー	8,201	C	1991.9.28	シルバータートル	北西面	54歳と310日	26
	(49,422m)	b.サガルマータ	8,848	N	1994.5.13	愛知学院大学	南　稜	57歳と172日	
	6　座	c.ダウラギリI	8,167	N	1994.10.1	シルバータートル	北東稜	57歳と313日	
	1936.11.生	d.シシャパンマC	8,008	C	1995.9.26	Y　M　S	北東稜	58歳と308日	
	(66才)	e.マナスル	8,163	N	1996.9.27	登　稜　会	北東面	59歳と309日	
		f.ガッシャーブルムII	8,035	P	1998.7.22	シルバータートル	南西稜	61歳と242日	
		g.チョモランマ	8,848	C	2002.5.17	桐生山岳会	北　稜	65歳と176日	
20	谷川太郎	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.12	東京農業大学	西　稜		16
	(57,297m)	b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1993.7.22	東京農業大学	南　稜		
	7　座	c.マカルーI	8,463	C	1995.5.22	J　A　C	東稜下	初登攀	
	1967.6.生	d.ジンミゲラ・チュリ	7,350	N	1995.10.16	東京農業大学	西　稜	初登攀	
	(35才)	e.K2	8,611	P	1996.8.12	J　A　C	南南東		
		f.カンチェンジュンガM	8,586	N	1998.5.15	J　A　C	北　面		
		g.チョー・オユー	8,201	C	1999.9.28		北西面		
21	倉橋秀都	a.ハン・テングリ	7,010	K	1991.8.2	労　山	ポグレ		19
	(55,645m)	b.ポベーダ	7,439	K	1991.8.14	労　山	ヴァジ		
	7　座	c.シシャパンマC	8,008	C	1994.5.18	労　山	北東稜		
	1960.2.生	d.チョモランマ	8,848	C	1998.5.18	労　山	北　稜		
	(42才)	e.ナンガ・パルバット	8,126	P	1999.7.27	労　山	西　面		
		f.ブロード・ピークM	8,051	P	2000.7.26	労　山	西　稜		
		g.マナスル	8,163	N	2001.10.9	労　山	北東面		
22	**山野井妙子**	a.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.7.28	高山研究所	ボロド		21
	(54,870m)	b.レーニン	7,134	K	1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
	7　座	c.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986.8.2	高山研究所	ボロド		
	1956.3.生	d.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.30	パイネ／スキー	西　面		
	(46才)	e.マカルーI	8,463	N	1991.10.7	ベルニナ山岳会	北西稜	O_2レス	
	無酸素1座	f.ガッシャーブルムII	8,035	P	1993.7.31	パイネニアソブ	南西稜		
	アルパイン・	g.チョー・オユー	8,201	C	1994.9.25		南西壁	AP	
	スタイル1座								
23	山本宗彦	a.レーニン	7,134	K	1983.7.27	J　A　C	ラズジ		22
	(54,822m)	b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1983.8.6	J　A　C	ボロド		
	7　座	c.マッシャーブルムE	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁	初登攀	
	1959.12.生	d.ブロード・ピークM	8,051	P	1985.8.12	関西カラコルム	西　稜		
	(43才)	e.ラカポシE	7,010	P	1987.7.3	明治大学	北　稜		
		f.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J　A　C	北　稜		
		g.マカルーI	8,463	C	1995.5.22	J　A　C	東稜下		
24	遠藤晴行	a.サガルマータ	8,848	N	1983.10.8	イエティ同人	南東稜	O_2レス	23
	(54,811m)	b.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985.7.20	高山研究所	ツェト		
	7　座	c.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.7.28	高山研究所	ボロド		

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
	1957.2.生	d.レーニン	7,134	K	1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
	(45才)	e.ナンガ・パルバット	8,126	P	1988.7.12	高山研究所	西　面		
	無酸素1座	f.ガッシャーブルムI	8,068	P	1989.7.12	高山研究所	北　稜		
	AP	g.ガッシャーブルムII	8,035	P	1990.7.2	イエティ同人	南西稜		
25	高橋　堅	a.ネムジュン	7,139	N	1983.10.27	弘前大学	東　稜	初登頂	24
	(51,553m)	b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1985.7.28	横浜蝸牛山岳会	南西稜		
	7　座	c.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1988.7.22	弘前大学	ツェト		
	1958.8.生	d.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1988.7.30	弘前大学	ボロド		
	(43才)	e.レーニン	7,134	K	1988.8.7	弘前大学	ラズジ		
	初登頂1座	f.ディラン	7,257	P	1989.7.12	弘前大学	北　稜	初登攀	
		g.ウルタルII	7,388	P	1996.7.31	カトマンズクラブ	南　稜	初登攀	
26	林　雅樹	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1990.7.24	京都クライマーズC	ツェト		25
	(51,380m)	b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1990.8.1	京都クライマーズC	ボロド		
	7　座	c.レーニン	7,134	K	1990.8.7	京都クライマーズC	ラズジ		
	1963.11.生	d.ハン・テングリ	7,010	H	1994.8.11	京都クライマーズC	ソロマ		
	(38才)	e.ポベーダ	7,439	K	1994.8.22	京都クライマーズC	ヴァジ		
		f.ガッシャーブルムI	8,068	P	1996.7.30	京都クライマーズC	北　稜		
		g.バルンツェ	7,129	N	2000.10.17	京都クライマーズC	南東稜		
27	高橋和宏	a.K2	8,611	P	1996.8.14	JAC	南南東		37
	(48,927m)	b.マナスル	8,163	N	1997.10.8	明治大学	北東面		
	6　座	c.リャンカンカンリ	7,534	C	1999.5.9		北　稜	初登頂	
	1973.10.生	d.ガッシャーブルムII	8,035	P	2001.7.10	明治大学	南西稜		
	(39才)	e.ガッシャーブルムI	8,068	P	2001.8.13	明治大学	北　稜		
	初登頂1座	f.ローツェ	8,516	N	2002.10.3	明治大学	西　面		
28	×星野龍史	.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		27
	(48,567m)	b.サガルマータ	8,848	N	1993.12.22	群馬県山岳連盟	南西壁	初登攀	
	6　座	c.ウルタルII	7,388	P	1996.7.31	カトマンズクラブ	南　稜		
	1967.11.生	d.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.7	群馬県山岳連盟	北　稜		
	冬期　1座	e.ガッシャーブルムII	8,035	P	1997.7.14	群馬県山岳連盟	南　西		
		f.シシャパンマM	8,027	C	1999.10.29	群馬県山岳連盟	北東稜		
29	渡辺玉枝	a.チョー・オユー	8,201	C	1991.9.28	シルバータートル	北西面	52歳と311日	39
	(48,236m)	b.ダウラギリI	8,167	N	1994.10.1	シルバータートル	北東稜	55歳と314日	
	6　座	c.ガッシャーブルムII	8,035	P	1998.7.22	シルバータートル	南西稜	59歳と243日	
	1938.11.生	d.ポベーダ	7,439	T	1999.8.11		ヴァジ		
	(64才)	e.ムスターグ・アタ	7,546	C	2001.8.12		西　稜		
		f.サガルマータ	8,848	N	2002.5.16	雪　クラブ	南東稜	63歳と176日	
30	北村俊之	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1995.7.19	FOS	西　稜	縦走	28
	(47,967m)	b.パサン・ラム・チュリ	7,354	N	1996.10.19	大阪山の会	西　稜	下部初登攀	
	6　座	c.ダウラギリI	8,167	N	1997.5.31	ガイヤ	北東稜		
	1962.8.	d.ガッシャーブルムI	8,068	P	1997.7.16	JAFMA	北　稜		
	(40才)	e.ナンガ・パルバット	8,126	P	1998.8.5		西　面		
	トラバース1回	f.チョー・オユー	8,201	C	1999.10.1	ファイト	北西面		

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
31	高橋和之	a.ダウラギリⅣ	7,661	N	1975.10.19	カモシカ同人	南　面		29
	(46,112m)	b.ローツェ	8,516	N	1983.10.11	カモシカ同人	西　面		
	6　座	c.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985.7.21	高山研究所	ツェト		
	1943.1.　生	d.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.7.28	高山研究所	ボロド		
	(59才)	e.レーニン	7,134	K	1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
		f.チョー・オユー	8,201	C	1987.9.21	カモシカ同人	北西面	パラパント	
32	青田　浩	a.アンナプルナⅠ	8,091	N	1981.10.29	イエティ同人	南　壁	初登攀	45
	(45,503m)	b.レーニン	7,134	K	1984.8.2		ラズジ		
	6　座	c.プモ・リ	7,161	N	1986.12.5	カモシカ同人	北東稜		
	1958.1.　生	d.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	JAC	南　面	初登頂	
	(44才)	e.レーニン	7,134	K	1999.8.5		ラズジ		
	初登頂1座	f.チョー・オユー	8,201	C	2002.10.1	JAC	北西面		
33	原　真	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1976.8.7	JAC東海	ツェト		30
	(43,952m)	b.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1982.7.31	高山研究所	ツェト		
	6　座	c.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	高山研究所	北東稜		
	1936.8.　生	d.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985.7.21	高山研究所	ツェト		
	(66才)	e.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.7.29	高山研究所	ボロド		
		f.レーニン	7,134	K	1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
34	鈴木正典	a.ピラミッド・ピークM	7,123	I	1993.4.26	HAJ	北東稜		31
	(43,591m)	b.マナNW	7,092	I	1995.8.19	山　形	南東稜	初登頂	
	6　座	c.ディラン	7,257	P	1996.7.24	バーバリアン	西　稜	下部初登攀	
	1961.12.　生	d.ムスターグ・アタM	7,546	C	1996.9.14	浪	西　稜		
	(41才)	e.ムスターグ・アタM	7,546	C	1998.8.1	岩・山	西　稜		
	初登頂1座	f.スパンティーク	7,027	P	2000.8.14	HAJ	南東稜		
35	石川龍彦	a.レーニン	7,134	K	1983.8.2	関　西	ラズジ		32
	(43,496m)	b.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1985.7.29		ツェト		
	6　座	c.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.8.6		ボロド		
	1952.2.　生	d.ムスターグ・アタM	7,546	C	1996.8.17	HAJ	西　稜		
	(50才)	e.ニンチン・カンサ	7,206	C	1997.8.18	HAJ	南西稜		
		f.ハン・テングリ	7,010	T	2000.7.30				
36	坂原忠清	a.ムスターグ・アタN	7,184	C	1981.8.7	スビダーニェ	北　面	初登頂	33
	(43,108m)	b.ヌン	7,135	I	1982.8.15	スビダーニェ	西　稜		
	6　座	c.レーニン	7,134	K	1988.8.17	スビダーニェ	ラズジ		
	1944.10.　生	d.ハン・テングリ	7,010	K	1991.8.10	日本教員	ボグレ		
	(58才)	e.ポベーダ	7,439	K	1996.8.3	日本教員	ヴァジ		
	初登頂1座	f.ニンチン・カンサ	7,206	C	2000.8.9	日本教員	東　稜	単独	
37	×加藤保男	a.サガルマータ	8,848	N	1973.10.26	RCCⅡ	南東稜	秋期初登頂	34
	(42,523m)	b.ナンダデヴィM	7,816	I	1976.6.15	JAC	南　稜		
	5　座	c.チョモランマ	8,848	C	1980.5.3	JAC	北　稜		
	1949.3.　生	d.マナスル	8,163	N	1981.10.14	イエティ同人	北東面		
	冬期　1座	e.サガルマータ	8,848	N	1982.12.27	イエティ同人	南東稜	冬期第二登	

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
38	×三枝照雄	a.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己物語	南東稜		35
	(42,015m)	b.アンナプルナⅠ	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南　壁	冬期初登攀	
	5　座	c.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J　A　C	北　稜		
	1957.10.　生	d.シシャパンマM	8,027	C	1988.10.24	H　A　J	北東稜		
	冬期　1座	e.チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	H　A　J	北西面	ﾊｯﾄ・ﾄﾘｯｸ	
	AP								
39	竹内洋岳	a.マカルーⅠ	8,463	C	1995.5.22	J　A　C	東稜下	初登攀	36
	(41,582m)	b.チョモランマ	8,848	C	1996.5.17	立正大学	北　稜		
	5　座	c.K2	8,611	P	1996.8.14	J　A　C	南南東		
	1971.1.　生	d.リャンカンカンリ	7,534	C	1999.5.9		北　稜	初登頂	
	(30才)	e.ナンガ・パルバット	8,126	P	2001.6.30	国　際　隊	西　面		
	初登頂1座								
40	山野井　泰史	a.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.30	パイオニアソブ	西　稜		
	(40,883m)	b.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993.7.31	パイオニアソブ	南西稜		
	5　座	c.チョー・オユー	8,201	C	1994.9.23		南西壁	初単独初登攀	
	1965.4　生	d.K2	8,611	P	2000.7.30	同人パハール	南々東リブ	単独	
	(37才)	e.ギャチュン・カン	7,985	C	2002.10.8		北　壁		
41	加藤慶信	a.マナスル	8,163	N	1997.10.8	明治大学	北東面		
	(40,316m)	b.リャンカンカンリ	7,534	C	1999.5.9		北　稜	初登頂	
	5　座	c.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	2001.7.10	明治大学	南西稜		
	1976.1.　生	d.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	2001.8.13	明治大学	北　稜		
	(26才)	e.ローツェ	8,516	N	2002.10.3	明治大学	西　面		
42	谷口　守	a.ナンガ・パルバット	8,126	P	1983.7.31	富山県山岳連盟	西　面	日本人初登	38
	(39,800m)	b.ブロード・ピークM	8,051	P	1988.8.13	富山県山岳連盟	西　稜		
	5　座	c.チョー・オユー	8,201	C	1992.9.20	カトマンズクラブ	北西面		
	1948.12.　生	d.ガッシャーブルムⅠ	8,068	P	1994.8.12	富山県山岳連盟	北　稜		
	(54才)	e.バサン・ラム・チュリ	7,354	N	1996.10.19	大阪山の会	西　稜	下部初登攀	
43	奥田仁一	a.カンチェンジュンガM	8,586	N	1998.5.15	J　A　C	北　壁		40
	(39,233m)	b.ニンチン・カンサ	7,206	C	1999.5.30	J　A　C	南西稜		
	5　座	c.チョー・オユー	8,201	C	1999.9.28		北西面		
	1966.9.　生	d.ムスターグ・アタ	7,546	C	2001.8.11		西　稜		
	(36才)	e.ナムナニ	7,694	C	2001.9.25	関西大学	西　面		
44	×佐藤正倫	a.7,167m峰	7,167	C	1986.8.16	東京農業大学	南東面	初登頂	41
	(39,161m)	b.ナンガ・パルバット	8,126	P	1990.7.24	パイネニアソブ	西　面		
	5　座	c.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.12	東京農業大学	西　稜		
	1963.8.　生	d.ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J　A　C	南　壁	初登頂	
	初登頂2座	e.ガッシャーブルムⅡ	8,035	P	1993.7.22	東京農業大学	南　稜		
45	和田城志	a.ゲントⅡ	7,342	P	1978.7.15	関西学生岳連	北　面		42
	(39,025m)	b.ランタン・リルン	7,225	N	1978.10.24	大阪市立大学	南東面	初登頂	
	5　座	c.カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.20	J　A　C	南西面		
	1949.10.　生	d.マッシャーブルムE	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁	初登攀	
	(53才)	e.ブロード・ピークM	8,051	P	1985.8.12	関西カラコルム	西　稜		
	初登頂1座								

順位	氏　名	山　名	標高(m)	地域	登頂日	派遣母体	ルート	摘　要	*
46	保坂昭憲	a.カンチェンジュンガM	8,586	N	1981.9.9	HAJ	南西面		43
	(38,860m)	b.ヌン	7,135	I	1983.9.14	こまくさ山岳会	西稜		
	5座	c.カルジャン	7,216	C	1986.10.16	HAJ	西壁		
	1948.2.生	d.サトパントM	7,075	I	1990.8.10	HAJ	北稜		
	(54才)	e.チョモランマ	8,848	C	2000.5.17	東北海登研	北稜	52才	
47	東條真百合	a.コルジュネフスカヤ	7,105	T	1985.7.28	女子登攀クラブ	ツェト		44
	(37,936m)	b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1985.8.7	女子登攀クラブ	ボロド		
	5座	c.レーニン	7,134	K	1985.8.15	女子登攀クラブ	ラズジ		
	1955.6.生	d.ガッシャーブルムII	8,035	P	1988.8.8	女子登攀クラブ	南西稜		
	(47才)	e.ダウラギリI	8,167	N	1990.10.9	女子登攀クラブ	北東稜		
48	吉村哲明	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1988.7.22	弘前大学	ツェト		46
	(37,042m)	b.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1988.7.30	弘前大学	ボロド		
	5座	c.レーニン	7,134	K	1988.8.7	弘前大学	ラズジ		
	1961.7.生	d.ディラン	7,257	P	1989.7.12	弘前大学	北稜	初登攀	
	(41才)	e.ブロード・ピークM	8,051	P	1991.7.30	パイネ／スキー	西稜		
49	高橋純一	a.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1977.8.8	HAJ	ボロド		47
	(37,020m)	b.シア・カンリ	7,422	P	1979.7.30	京都カラコルムC	南西面		
	5座	c.ムスターグ・アタN	7,184	C	1981.8.14	スビダーニェ	北面		
	1948.11.生	d.リモI	7,385	I	1988.7.30	HAJ	南壁		
	(54才)	e.リャンカンカンリ	7,534	C	1999.5.10		北稜		
50	大神田伊曾美	a.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1996.8.14	労山	ツェト		48
	(37,013m)	b.レーニン	7,134	K	1998.8.13	労山	ラズジ		
	5座	c.チョー・オユー	8,201	C	1999.9.26	ファイト	北西面	55才	
	1944.5.生	e.スパンティーク	7,027	P	2000.8.15	HAJ	南東稜		
	(58才)	f.ムスターグ・アタ	7,546	C	2001.8.12		西稜		
51	松本正城	a.クン	7,077	I	1981.8.27	RCCII	東稜		49
	(36,362m)	b.ヌン	7,135	I	1982.8.18	東京山岳協会	北西稜		
	5座	c.ガッシャーブルムII	8,035	P	1985.7.28	横浜蝸牛山岳会	南西稜		
	1948.11.生	d.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1988.7.30		南東面		
	(54才)	e.ハン・テングリ	7,010	H	1989.8.15		ソロマ		
52	小口順史	a.ハン・テングリ	7,010	H	1992.8.10	東農工大	北面		50
	(36,139m)	b.ハン・テングリ	7,010	H	1997.8.6	太陽と風	北面		
	5座	c.ポベーダ	7,439	K	1997.8.17	太陽と風	西稜		
	1970年.	d.レーニン	7,134	K	1999.		ラズジ		
	(32才)	e.ムスターグ・アタ	7,546	C	2001.8.11		西稜		
53	山中芳樹	a.イスモイル・ソモニ	7,495	T	1986.8.3	NCP	ボロド		51
	(35,819m)	b.コルジェネフスカヤ	7,105	T	1986.8.9	NCP	ツェト		
	5座	c.レーニン	7,134	K	1986.8.15	NCP	ラズジ		
	1950.9.生	d.ハン・テングリ	7,010	H	1989.8.15	労山	ソロマ		
	(52才)	e.サトパントM	7,075	I	1994.9.24	労山	北稜		

■ 4座登頂者（備考の数字は8,000ｍ峰登頂数＊印はエヴェレスト登頂者）

順位	氏　名	生年月日	獲得標高	備考
54	川村　晴一	1947.12.　生	33,755ｍ	3 ※
55	貫田　宗男	1951.3.　生	33,151ｍ	3※
56	八木原圀明	1946.11.　生	33,215ｍ	3※
57	戸高　雅史	1965.4.　生	32,823ｍ	4
58	坂本　正治	1959.10.　生	32,670ｍ	3※
59	**吉田　文江**	1955.10.　生	32,454ｍ	4
60	**渋谷　由加**	1966.1.　生	32,430ｍ	4
61	長久保浩司	1969.4.　生	32,197ｍ	3
62	大谷　映芳	1947.4.　生	32,138ｍ	2
63	鈴木　幹夫	1967.3.　生	32,115ｍ	3
64	×小西政継	1938.11.　生	32,048ｍ	3
65	八嶋　寛	1950.3.　生	31,827ｍ	3※
66	中島　俊弥	1964.12.　生	31,696ｍ	2※
67	×斎藤安平	1953.1.　生	31,431ｍ	3
68	鈴木　清彦	1957.2.　生	31,419ｍ	2
69	×二上純一	1951.12.　生	31,166ｍ	1※
70	重野太肚二	1943.4.　生	31,100ｍ	2
71	上野　幸人	1954.1.　生	30,913ｍ	2
72	林　孝治	1951.9.　生	30,882ｍ	2
73	鈴木　孝雄	1938.5.　生	30,865ｍ	3
74	富田　雅昭	1956.6.　生	30,771ｍ	2
75	飛田　和夫	1946.1.　生	30,377ｍ	1
76	千葉　孝義	1945.9.　生	30,027ｍ	1
77	早川　晃生	1956.7.　生	29,941ｍ	1
78	田村　正勝	1942.4.　生	29,938ｍ	1
79	金沢　健	1945.10.　生	29,935ｍ	1
80	**柳沢　伸子**	1950.10.　生	29,769ｍ	1
81	古関　正雄	1961.3.　生	29,767ｍ	1
82	中川　裕	1960.8.　生	29,302ｍ	0
83	安藤　昌之	1955.11.　生	29,280ｍ	0
84	新郷　信廣	1943.3.　生	29,250ｍ	0
85	高橋　敏雄	1958.10.　生	29,133ｍ	0
86	黒滝　淳二	1952.10.　生	29,116ｍ	0
87	堀　弘	1957.8.　生	28,991ｍ	0
88	黒沢　孝夫		28,744ｍ	0
89	川崎　浩史	1964.1.　生	28,464ｍ	0
90	×北沢真一	1952.2.　生	28,259ｍ	0
91	村上　和也	1955,3,　生	25,975ｍ	3※
92	村口　徳行	1956,5,　生	25,731ｍ	3※

■ 3座登頂者

順位	氏　名	生年月日	獲得標高	備考
93	×吉野　寛	1950,2,　生	25,626ｍ	3※
94	×禿　博信	1951,10,　生	25,626ｍ	3※
95	**続　素美代**	1967,12,　生	25,250ｍ	3※
96	鈴木　昇己	1953,2,　生	25,144ｍ	2※
97	中村　省彌	1942,5,　生	25,120ｍ	2※
98	澤田　実	1968,7,　生	25,141ｍ	3※
99	佐藤　光由	1961,4,　生	25,100ｍ	3※
100	井本　重喜	1963,1,　生	24,942ｍ	2※
101	坂下　直枝	1947,2,　生	24,907ｍ	2
102	森　章一	1975,4,　生	24,619ｍ	3
103	天野　和明	1977,2,　生	24,619ｍ	3
104	×根津皖一	1939,12,　生	24,403ｍ	3
105	×大西　宏	1962,5,　生	24,321ｍ	2※
106	菊池　守	1955,5,　生	24,180ｍ	2※
107	工藤　寛	1966,6,　生	24,172ｍ	2※
108	大蔵　喜福	1951,2,　生	24,153ｍ	2
109	賀集　信	1949,1,　生	23,998ｍ	2
110	吉田　裕一	1970,8,　生	23,996ｍ	2
111	川原　慶紀	1940,11,　生	23,866ｍ	2※
112	**大久保由美子**	1968,12,　生	23,744ｍ	2
113	大宮　求	1949,4,　生	23,639ｍ	2
114	×高見和成	1945,5,　生	23,595ｍ	1
115	×小松幸三	1954,5,　生	23,579ｍ	1
116	中西　紀夫	1958,3,　生	23,546ｍ	2
117	加藤　幸彦	1933,1,　生	23,479ｍ	1
118	小笠原岩雄	1952,11,　生	23,436ｍ	2
119	棚橋　靖	1963,1,　生	23,357ｍ	2
120	吉田　憲司	1953,1,　生	23,300ｍ	1
121	×日野悦郎	1940,5,　生	23,270ｍ	2
122	桑原　巌	1935,11,　生	23,185ｍ	2
123	池田　壮彦	1946,10,　生	23,144ｍ	2
124	永田　幸一	1957,12,　生	23,088ｍ	1※
125	島方　健次	1947,12,　生	23,040ｍ	1
126	平林　克敏	1934,12,　生	23,011ｍ	1※
127	×廣島三朗	1943,3,　生	22,998ｍ	1
128	松林　公蔵	1950,5,　生	22,983ｍ	1
129	×小林利明	1948,12,　生	22,939ｍ	1
130	坂井　広志	1957,2,　生	22,916ｍ	1
131	×角田不二	1952,9,　生	22,760ｍ	1
132	角谷　道弘	1963,10,　生	22,745ｍ	1

順位	氏　名	生年月日	獲得標高	備考
133	榊原　義夫	1953,11,　生	22,743m	1
134	大谷　亮	1959,9,　生	22,721m	1
135	小林　新二	1956,10,　生	22,718m	1
136	**真嶋　花子**	1949,2,　生	22,650m	1
137	駒宮　博男	1954,5,　生	22,637m	1
138	服部　徹	1970,1,　生	22,500m	1
139	吉田　秀樹	1953,5,　生	22,446m	1
140	小泉　章夫	1955,11,　生	22,401m	1
141	広瀬　学	1967,3,　生	22,311m	1
142	佐々木穂高	1972,6,　生	22,311m	1
143	岡林　良一	1951,11,　生	22,271m	1
144	横山　英雄	1942,4,　生	22,122m	0
145	志小田美弘	1959,1,　生	22,106m	0
146	金子　秀一	1959,10,　生	21,946m	0
147	**金子　珠美**	1958,4,　生	21,946m	0
148	古谷　朋之	1972,8,　生	21,853m	0
149	天城　敞彦	1947,5,　生	21,827m	0
150	橋本　康弘	1954,8,　生	21,796m	0
151	燕昇司　実	1942,8,　生	21,757m	0
152	関根　幸次	1933,10,　生	21,756m	0
153	**三原　洋子**	1941,5,　生	21,755m	0
154	**×井波美保**	1957,1,　生	21,734m	0
155	松永　忠則		21,734m	0
156	鴨川　正昭		21,734m	0
157	斉藤　正		21,734m	0
158	入瀬　透		21,734m	0
159	横森　健治		21,734m	0
160	梶山　正		21,734m	0
161	×山崎彰人	1967,7,　生	21,721m	0
162	佐藤　英樹	1948,4,　生	21,699m	0
163	橋口　徹	1970,6,　生	21,667m	0
164	水谷　寿宏	1964,4,　生	21,583m	0
165	武部　秀夫	1952,12,　生	21,562m	0
166	石澤　好文	1951,11,　生	21,495m	0
167	保坂　巌	1955,1,　生	21,476m	0
168	溝手　康史	1955,5,　生	21,465m	0
169	花井　修	1952,1,　生	21,363m	0
170	井上　仁	1958,11,　生	21,249m	0

■八千メートル峰２座登頂者

順位	氏　名	生年月日	獲得標高	備考
171	×椎名厚史	1970,6,　生	17,197m	2
172	×赤坂謙三	1968,4,　生	17,197m	2
173	松原　尚之	1965,3,　生	17,074m	2
174	木本　哲	1956,2,　生	17,049m	2＊
175	野口　健	1973,8,　生	17,049m	2＊
176	荻尾　雄二	1972,7,　生	17,049m	2＊
177	田中　敏雄	1955,8,　生	17,049m	2＊
178	山本　俊雄	1936,7,　生	17,049m	2＊
179	山田　淳	1979,5,　生	17,049m	2＊
180	佐藤　信二	1950,7,　生	17,049m	2＊
181	花田　博志	1960,3,　生	16,974m	2＊
182	矢野　利明	1952,11,　生	16,899m	2＊
183	瀧根　正幹	1951,10,　生	16,812m	2
184	鈴木　茂	1955,1,　生	16,753m	2
185	山本　秀夫	1949,12,　生	16,737m	2
186	×柳沢幸弘	1955,2,　生	16,702m	2
187	稲葉　英樹	1964,3,　生	16,679m	2
188	小野　岳	1960,7,　生	16,589m	2
189	福島　正明	1950,10,　生	16,511m	2
190	近藤　謙司	1962,6,　生	16,402m	2
191	池田　錦重	1938,11,　生	16,368m	2
192	清水　修	1958,4,　生	16,269m	2
193	加藤　智二	1960,5,　生	16,236m	2
194	安村　淳	1946,8,　生	16,209m	2
195	早川　敦	1973,8,　生	16,103m	2
196	谷山　宏典	1979,2,　生	16,103m	2
197	×福本誠志	1973,12,　生	16,078m	2
198	辻　美行	1947,6,　生	16,089m	2

■２座登頂者（上記を除く）

古野淳、×植村直己、×藤倉和美、中村進、深田良一、×坂野俊孝、**高橋留智亜**ら131名

※地域の略号　Ｎ＝ネパール、Ｃ＝中国、Ｐ＝パキスタン、Ｉ＝インド、Ｈ＝カザフ、Ｋ＝キルギス、Ｔ＝タジキスタン

ＨＡＪ販売書籍案内

書　名	価　格	送料
1．雪の住処35年の記録	3，５００円	（４５０円）
2．天壇の山に挑む（ミニヤ・コンカ1991年隊）	2，５００円	（３１０円）
3．勇者よ永遠に、ナンガ・パルバット（1984年隊事故報告）	1，５００円	（２４０円）
4．千人の悪魔の峰、マモストン・カンリ（1984年隊）	1，０００円	（２４０円）
5．烈風の彼方へ、冬期マナスル（1982年隊）	1，５００円	（２４０円）
6．ナンダ・カート（1981年隊事故報告）	2，０００円	（３４０円）
7．聖地巡礼の旅（サトパント1990年隊）	2，０００円	（２４０円）
8．“神の河”ブラマプトラの激流を下る（1990～1991年）	2，５００円	（２４０円）
9．知られざる北部シッキムの山々	2，０００円	（２４０円）
10．東部カラコルム	2，０００円	（２４０円）
11．ナマステ、サラスワティ（1992年隊）	2，０００円	（３１０円）
12．崑崙の頂を踏む、青海・玉珠峰（1993年隊）	1，０００円	（２４０円）
13．天女の山（玉虚峰）（1994年隊）	1，０００円	（２４０円）
14．ヒマラヤ、そして仲間達へ（ケダルナート・ドーム1980年隊）	1，５００円	（３１０円）
15．ルンポ・カンリ（1994年隊）	1，５００円	（２４０円）
16．中国登山の手引き（第５版）	3，０００円	（３４０円）
17．ニンチン・カンサ（1997年隊）	1，６００円	（２１０円）

■ 寸　感 ■

1989年冬のマッキンリーで遭難した「山田昇」の遺稿・追悼集が、15年祭の行われる４月20日に「白き山河の旅人」として発刊される。

編集は、故人がＨＡＪ常務理事として功績を残してくれた縁で私が担当した。

当初は「遺稿」が少ないだろうから「追悼」を主にと考えていたが、あにはからんや、それなりの遺稿があり、ちょっとした驚きであった。それにしても「人の情けの薄さよ」をも感じた。

（山森）

事務局日誌（２月）

１日（土）　カンペンチン隊合宿（於ＨＡＪルーム 山森他酒井隊長以下隊員８名）

２日（日）　第11回「中国登山研究会」於、豊島区民センター（18名）
チベット登山協会副秘書長ニマ・ツェリン氏サヨナラ（於、庄屋９名）

５日（水）　ニンチン・カンサ「トレッキング」広報依頼27名へ発送

６日（木）　ヒマラヤ印刷、釣巻印刷と協議

10日（月）　ヒマラヤ376号発送

13日（木）　山岳文化学会協議（酒井、山森）

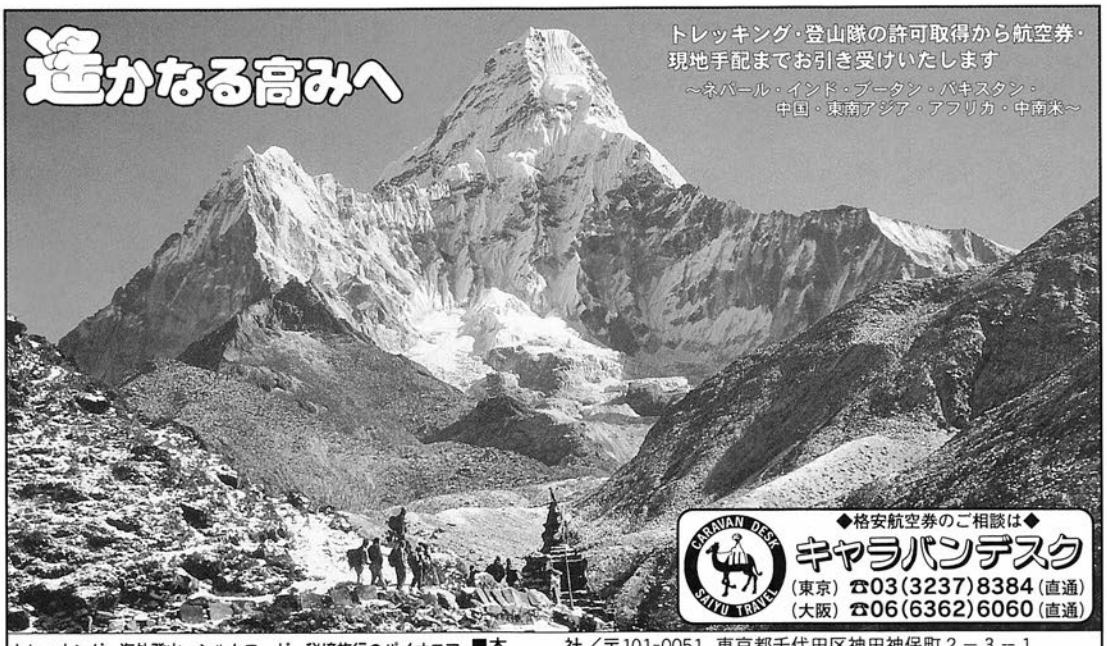
22～23日　「日山協第41回海外登山技術研究会」於、大学セミナーハウス（山森）

24日（月）　東京集会（15名）

28日（金）　ヒマラヤン・クラブ日本支部総会於、国際文化会館（山森、八木原、尾形）

ヒマラヤ No.377（４月号）

平成15年３月10日印刷　　15年４月１日発行
発行人　山森欣一
編集人　山森欣一
発行所　日本ヒマラヤ協会
〒170-0013　東京都豊島区東池袋４－２－７
萬栄ビル501号
電話　03-3988-8474
郵便振替　00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



トレッキング・海外登山・シルクロード・秘境旅行のパイオニア

株式会社 西遊旅行

国土交通大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

西遊旅行ホームページ (http://www.saiyu.co.jp)

■本社／〒101-0051 東京都千代田区神田神保町２－３－１
岩波書店アネックス５F
☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396

■大阪営業所／〒530-0026 大阪市北区神山町６－４ 北川ビル５F
☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966

お問い合わせ・お申し込みにフリーダイヤル(通話料無料)をご利用下さい。
☎0120－811395

東京新聞の山岳書 東京新聞出版局

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-4 日比谷中日ビル6F
TEL:(03)3595-4830(代)
http://www.tokyo-np.co.jp/tbook

最新クライミング技術
ジム、ゲレンデのフリークライミングからマルチピッチ、アルパイン、ビッグウォールまで、すべてのロッククライマー必読の書。こつとうの技術を単なるマニュアルとしてではなく、その意味や、選択基準までを含めて詳しく解説。実践的なクライミングのポイント、心構えなども細かくアドバイス。
菊地敏之 著 1600円

山小屋の主人の炉端語
著名な山小屋の主人たちが宿泊の登山者に炉端で語る「人一話の取っておきのお話。
工藤隆雄 著 1500円

すぐ役立つ **山の花学**
【飛騨高山の花博士】として知られる著者の、山の花見術入門書。
小野木三郎 著 1456円

すぐ役立つ **山の気象と救急法**
山の気象遭難を回避するための天気判断と、事故対策に役立つ救急法を平易に紹介。
飯田睦治郎 桜井博幸 著 1359円

すぐ役立つ **記念日の山に登ろう**
人それぞれの記念日の日付と標高が一致する山はどこに。
石井光造 著 1300円

すぐ役立つ **山のメモ帖**
「岳人」連載の「山の雑学ノート」から65編の話題を取り上げた、山のウンチクを深め、安全登山の指針となる一冊。
岳人編集部編 1400円

中高年の雪山入門
低山から夢のヒマラヤまで…。トラブルを未然に防ぎ、白銀の大自然を満喫しながら、雪山歩きを楽しもう。
福島正明 著 1600円

花と歴史の50山
「花と歴史の山旅」の第2弾、花の山々を訪れた珠玉のエッセー集。
田中澄江 著 1359円

女性ガイドのしなやか登山術
常識にとらわれず、自在に知恵を働かせれば山はもっと素敵になると呼びかける、女性登山ガイドのユニークな登山講座。
樋口英子 著 1500円

新・山靴の音
還暦をむかえた著者が山への思いと、山の仲間との交遊を綴る。
芳野満彦 著 1262円

中高年登山なんでも百科
「登山に年齢はない」と主張する著者が、より安全により快適に登山を楽しめるよう、中高年登山の虎の巻。
福島正明 著 1500円

登山の運動生理学百科
「どうしたら合理的で安全な登山ができるのか」を、ヒマラヤなど高所登山実績を踏まえて、分かりやすくまとめた。
山本正嘉 著 2000円

山書散策
今まで数多く発刊された山書。何を読んだらよいか。そんな時の指針として――「岳人」連載時から好評。
河村正之 著 1500円

※本体価格に消費税が加算されます。

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。

Mt. EXPEDITION SHOP

ICI ISHII SPORTS

●登山本店／〒169-0073 東京都新宿区百人町２-２-３ ☎03-3208-6601
●新宿西口店／〒160-0023 東京都新宿区西新宿１-16-７ ☎03-3346-0301
●神田登山店／〒101-0051 東京都千代田区神田神保町１-６-１(タキイビル２Ｆ) ☎03-3295-0622
●神田本館／〒101-0051 東京都千代田区神田小川町３-10 ☎03-3295-3215
●八王子店／〒192-0081 東京都八王子市横山町３-12 ☎0426-46-5211
●大宮店／〒330-0802 埼玉県さいたま市宮町１-37 ☎048-641-5707
●高崎店／〒370-0831 群馬県高崎市新町５-３ ☎027-327-2397
●川越店／〒350-0045 埼玉県川越市南通町14-４ ☎0492-26-6751
●甲府店／〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町481-１ ☎055-221-0141
●宇都宮今泉店／〒321-0962 栃木県宇都宮市今泉町1560 ☎028-639-9650
●太田高林店／〒373-0825 群馬県太田市高林東町1386 ☎0276-38-0620
●松本店／〒390-0874 長野県松本市大手３-４-24 ☎0263-36-3039
●長野店／〒380-0825 長野県長野市末広町1356 ☎026-229-7739
●新潟店／〒950-0087 新潟県新潟市東大通２-５-１ ☎025-243-6330
●新潟とやの店／〒950-0982 新潟県新潟市堀之内南１-16-52 ☎025-241-5134
●仙台店／〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡４-１-８ ☎022-297-2442
●秋田広小路店／〒010-0001 秋田県秋田市中通１-４-５ ☎018-884-1771
●盛岡大通店／〒020-0022 岩手県盛岡市大通１-10-16 ☎019-626-2122
●札幌店／〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西４-８ ☎011-222-3535
●北十二条店／〒001-0012 北海道札幌市北区北十二条西３-５ ☎011-747-3062
●伏古店／〒007-0861 北海道札幌市東区伏古一条４-１-45 ☎011-787-0233
●平岡店／〒004-0874 北海道札幌市清田区平岡四条１-43-９ ☎011-883-4477
●外商部(メールオーダー係)／〒169-0073 東京都新宿区百人町２-２-３ ☎03-3200-7219

ICI石井スポーツ

事　務　所／〒169-0073 東京都新宿区百人町１-４-15 ☎03-3200-1004